

## 謹賀新年



あけまして

おめでとうございます

本年もよろしく

お願いいたします

中央執行委員長

辻村和裕

中央執行副委員長

吉永和文

中央執行委員

埴岡大介

中央執行委員

鈴木教仁

特別中央執行委員

菊地克敏

特別中央執行委員

小山達礼

青年女性委員会議長

小林優太郎

会計監査

鈴木俊巳

会計監査

加藤典久

職員

田中千絵

令和七年 元旦



辻村中央執行委員長

2025年あいさつ

謹んで新春をお祝い申し上げます。旧年中は大変お世話になりました。執行委員長という立場で2回目の新年挨拶となり、年齢を重ねると共に月日の流れが早く感じる今日この頃ですが、本年も貨物鉄産労の発展に向け、気持ち新たに取り組んでまいりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

新年にあたり、自分なりの決意を述べさせていただきます。

まずは、安全についてです。私たちは、JR連合方針のもと「すべてのJR関係者の死亡事故・重大事故ゼロ」を目標に取り組んでいます。昨年、新山口駅構内脱線・輪軸組立不正・函館線脱線・川内駅脱線と、重大事象

が立て続けに発生し、グループ会社においてもフォークリフト絡みの危険な事故が多く発生しており、また、旅客会社においても危険な事象が相次いだことでJR産業への信用信頼が大きく損なわれ、「安全」に対しての意識を強く感じる年となりました。日本の鉄道の定時率は世界でも群を抜いて秀でていますが、この定時率がやがて大きな事故を起こすのではないかと危惧する声も多々あります。定時運行を気にするあまり安全行動を無視することが、良い商品を提供しているといえるでしょうか。今一度、日頃の作業を見つめ直し、業務においては常に責任感を持ち、再発防止・安全強化に対する取り組みを、より一層作り上げていきましょう。安全に終わりはありません。

次に、会社の経営状況を含めた政策課題です。2024年度ではJR貨物に対する期待も大きく、営業収入は伸びてはいますが、それと比例して営業費用も増えており、営業利益がほとんど出ていないのが現状です。2019年3月に策定した「JR貨物グループ中期経営計画2023」では、2023年度の連結経常利益140億円以上を目標としましたが、コロナもあり目標とは程遠い結果となり、2024年度通期見通しも厳しい数字が並んでいます。収入が順調でも利益が出なければ会社は元氣を取り戻せず、大きな事象が続く会社全体が暗い雰囲気となつていますが、労使が一体となつてこの難局を克服していきましょう。鉄道強靱化については、2024年元日に発生した能登半島地震をはじめ、自然災害が甚大化しており、全国において鉄道被災が相次いでいます。強靱化は直ぐにできるものではなく、復興に貢献できる安全で信頼されるJR貨物会社を築きあげるためにも、災害に強い鉄道設備を早期に作り上げる取り組みをJR連合と共に行っていく必要があります。関心が高いアポルール改定ですが、2年後の

2027年に迫っています。今回の改定はこれまでとは全く違い、相当厳しい中身になることは明白であり、どのような形に収まるのがお互いにベストなのか、今から準備していきJR連合と共に取り組んでいきます。

次に組織課題です。ご承知の通り組織数は減少していますが、先輩方のご尽力により、これまで築き上げた貨物鉄産労を今後も守っていく使命が私達にはあります。課題は多くありますが、勇気ある決断をしてくれた仲間のためにも、JR連合・貨物鉄産労・各ロジ労組が連携を密にし、その総力を結集し組織運動を盛り上げていきたいと思えます。

次に労働条件についてです。2024春闘・期末手当では低額回答に終わり、不満の声が多くあります。労働条件の最たる賃金を上げなければ、優秀な人材確保も出来なくなり、やがて会社の発展に支障をきたします。多くの企業が賃金改善に取り組んでいる中、JR貨物は大きく遅れ

をとっていることは会社も認識しているはずですが、経営陣が「JR貨物の将来は明るい」「収入も増えているからJR貨物は大丈夫だ」と、大きく発信しても、賃金を上げなければ離職は進みます。将来に希望の持てる会社を構築するためにも、組合員からの切実な声を吸い上げ、労働条件改善を強く要望していきます。

最後に、日本の人口減少問題です。昨年末、2024年の出生数が70万人を切るという衝撃的なニュースが流れました。岸田内閣が異次元の少子化対策をしましたが、出生数は毎年のように下がり続けています。2023年の死亡数が約160万人であり、2024年の死亡数も160万人とした場合、160万人ー70万人で、日本の人口は一年間で90万人近く減ることになります。この状況が10年間続くと仮定した場合、10年後には、約1000万人が減少することでJR産業にも大きな影響を及ぼします。す



に公共交通機関の減便や廃止、宅便廃止等が始まっており、日々の生活が不便になってきていますが、目まぐるしく変わっていく世の中に対し、私達も臨機応変に変わっていかねばなりません。

私は、1993年4月に入社し、1995年8月に東海地区本部青年部書記長になり、東海地区本部青年部長↓本部青年部長↓本部執行委員↓本部書記長を歴任し、30年近く組合役員として組合運動を見てきました。

これからもあらゆる角度から貨物鉄産労働・運営を精査し、これまで築き上げた貨物鉄産労働がさらに発展するように頑張っていく所存です。組合員の皆様におかれましては、体調を崩しやすい時期でありますがお身体に気をつけ、今後も本部に対し叱咤激励をお願いし、私からの挨拶を終えたいと思います。本年も宜しくお願い致します。



荻山JR連合会長

## 2025新年あいさつ

明けましておめでとうございませう。皆様には健やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。日頃のご精励と組合活動へのご協力に感謝いたします。

本年1月末には国鉄の期間をJRの期間が超えます。そして今年には戦後80年の節目の年でもあります。JR産業は大きな転換期にあります。社会の変化に未来志向で対応し、持続的な成長を築いていかなければなりません。成果にこだわり、次代への道筋を付けるために、効果や時間を意識して新年に臨みます。私たちの決意を3点申し上げます。

まず、安全の確立です。4月25日に福知山線列車事故から20年を迎えます。改めて、事故を決して忘れず、

安全最優先で取り組むよう訴えます。最近では触車、感電、墜転落などかねてより発生している類型の事故が相次ぎ、JR産業で昨年は7名が労災で命を落としました。ルールや基本動作の遵守や確認の励行など、原点到立ち返り、安全確立に全力をあげなければなりません。また、昨年はJR九州高速船での不正・隠蔽やJR各社で輪軸組立作業でのデータ不正など、安全やコンプライアンスに関し社会の信用を失う事象が続きました。すべての組合員が「ルールの逸脱は許されない」との意識を持ち、問題があれば妥協なく指摘し、「自分ゴト」として取り組むよう訴えます。

低賃金も急速に上がっています。2025春季生活闘争は社会の流れに乗り遅れることなく、成長投資である積極的な賃上げを実現すべく果敢に臨みます。とくにグループ全体に効果を波及させるためにワンチームで取り組むこととします。

3点目に組織の強化、拡大についてです。労働組合は多様な仲間を包摂して意見をまとめ、労使の交渉や協議を通じて処遇や働きがいが高められる民主的な組織です。会社の職制だけでは職場の実態や働く者の課題や意見を正確に把握できません。労働組合を通じて、JR産業内はもとより、広く社会の仲間とつながることもできます。JR産業の持続的な成長のためには、チェック・提言機能を持つ労働組合と健全な労使関係が欠かせません。労働組合の存在意義が実感されるよう、職場から参加の輪を広げていきましょう。そして、JR産業に働くすべての仲間のJR連合への総結集、JR各社とJR連合との信

頼関係の強化を訴えます。結びに、有意義な節目の一年を築くために、JR連合は全力で取り組む決意を申し上げます。新年のご挨拶と

こくみん共済 NEWS

「たすけあいの輪をむすぶ」  
こくみん共済 coop は、次のステージへ

**こくみん共済〈全労済〉**

全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

公式キャラクター  
ピットくん

たすけあいの輪をむすぶ

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

